学習内容報告書_水俣市立袋中学校２

学校名	水俣市立袋中学校
授業者	森　敬介（ひのくにベントス研究所所長）、第２学年部職員、パイオニアスクール担当職員

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

袋湾の生物図鑑を作ろう

1-2.　学年

第２学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

本校区にある袋湾は、西方海岸に自然海岸を持つ干潟を有する。そのため絶滅危惧種を含む希少生物を多種類存在する。今回の取り組みでは、生物の採取・観察を行い、希少生物を確認し、観察しやすくするための袋湾の生物図鑑を作成する。海岸に入り、生徒一人一人が肌で環境を感じるとともに、生物種の豊富な海岸がいかに貴重な存在であるかを知り、保全活動につなげていく取り組み。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

水俣科の目的である、地域に学び地域を誇れる生徒の育成を目指し、本校区内にある干潟に、多種多様な生物の存在を調査する。生活排水が流れる河川水が流入する袋湾と私たちの生活とのかかわりについて学び、海洋環境保全のための活動を考えさせる。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

自分たちの生活が海岸生物に対してどのような影響を及ぼしているかを考え、河川投棄ごみや海洋投棄ごみ、家庭雑排水について配慮する態度を育てる。また、観察場所の状態を意識することで、学校前の干潟の保全行動につなげる。

1-7.　単元の展開（全７時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	玄関前集合　移動（20 分）　現地到着 生物採取の仕方説明 生物採取・写真撮影 分類説明　A 班から F 班 まとめ　お礼の言葉 現地出発　　移動（20 分）学校到着　感想記入	ひのくにベントス研究所　　森　敬介　所長 NPO 法人「植物資源の力」　金刺潤平さん ・海岸生物の捕集と同定が主な活動 ・生物名の確実な記録を行う
2	玄関前集合　移動（20 分）現地到着 生物採取の仕方説明 生物採取・写真撮影 現地出発　　移動（20 分）学校到着	・生物図鑑作成班のメンバーが取り組む。 ・生物の特徴がわかりやすい写真記録を行う。 デジタルカメラ、生物の背景版 2 色（白・黒） 海岸生物図鑑
2	玄関前集合　移動（20 分）現地到着 生物採取の仕方説明 生物採取・写真撮影 現地出発　　移動（20 分）学校到着	・生物図鑑作成班のメンバーが取り組む。 ・生物の特徴がわかりやすい写真記録を行う。 デジタルカメラ、生物の背景版 2 色（白・黒） 海岸生物図鑑
1	写真の選定 生物名の同定と特徴の書き出し 海岸生物カードの作成 リーフレット作成	

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　7　時間中の　1，2　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

専門家の指導のもと、採取した生物名を同定することで、袋湾の海岸生物の多様性を知り、袋湾の保全意識を高める。同定した生物を自分たちの見やすい形での図鑑作成に生かす。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
○玄関前集合（スタッフの紹介）	ひのくにベントス研究所　　森　敬介　所長 NPO 法人「植物資源の力」　金刺潤平さん他メンバー
○学校出発　移動（20 分） ○調査地点到着	・移動中の安全に配慮する
○生物採取方法・注意事項説明 ・生物採取 同じ種類の生物を数多く集めず、多種類の生物を見つける。	・生物種を多くさがすこと、海岸の陸地側から水際まで様々なポイントを幅広く採取させる。 ・捕集ポイントを指示しながら採取させる。
○分類説明 A 班からＦ班までを班ごとに森先生に同定をお願いする。	・生物の名前の聞き間違いに注意する。 ・生物名の確実な記録を行わせる
○写真撮影 ・同定が終わった班から生物の写真を撮影する。 ・観察が終わった生物を戻す。	・特徴的な生物については写真記録を残させる。
○まとめ ・袋湾の干潟の状態について説明を聞く。	・自然海岸・干潟の機能について、袋湾の状態の説明を行う。
○現地出発　　移動（20 分） ○学校到着 ○感想記入 ・教室で、本日の感想を記入する。 	

3.　今回の活動の自己評価

生物採取については興味が高く、積極的な行動がみられた。前年度までの採取データをもとに探させたが、目立つ生物に興味が集中するきらいがあるため、生物種を指定しながら探させることも必要だと思われる。 野外観察では図鑑より、ベントス研究所の森先生が作成されている分類シートが使いやすいので、袋湾に特化したシートの作成につなげることができると考えられる。 様々な生物や希少生物、なかでも絶滅危惧種の存在が袋湾の環境保全の意識向上につながったと思われる。 その後行われた文化祭において、リーフレットを作成することができた。

4.　今後の課題

実施時期が毎年秋なので、生物種が限られてきていると思われる。春の大潮の時期などを利用することで、季節による違いや、潮間帯下部の生物採取などが必要。生物図鑑を作る方向性として、生物の特徴に合わせ、採取場所の写真などの情報を増やしていくことが望まれる。また生物名の間違いなどを訂正していく作業も必要である。毎年繰り返し行っていくことで、情報の積み重ねが可能になりより使い勝手のよい図鑑にできると思われる。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

危険防止に留意する。移動、調査地での安全確保が必要。海岸での活動になるため、調査の指導以外に生徒の行動把握を行うためのスタッフの配置が必要である。干潟の管理者への許諾が必要である。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。